

水稻生育情報 (No.2)

令和5年6月13日

茨城県農西農林事務所経営・普及部門

(筑西地域農業改良普及センター)

【生育概況】

本年4月から6月第2半旬までの気象は、日平均気温が平年より0.6℃高く、降水量は平年比138%、日照時間は平年比107%でした。

管内の水稻定点調査における6月8日現在の「コシヒカリ」生育状況は、平年と比べて草丈はやや低く、茎数は少なく、葉色はやや淡くなっています。

生育は遅れていますが、圃場によっては中干し適期に入っています。

表1 水稻定点調査結果(6月8日現在:コシヒカリ)

調査地点	田植日 (月日)	植付株数 (株/坪)	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉色 (葉色板)	(SPAD値)
筑西市	5月5日	55	37	259	3.7	38.6
一本松	(5月4日)	(51)	(38)	(355)	(4.5)	(40.2)
下妻市	5月1日	46	40	404	4.8	43.2
加養	(4月30日)	(47)	(43)	(438)	(4.9)	(42.4)
桜川市	5月9日	51	32	255	4.4	40.4
真壁町飯塚	(5月5日)	(51)	(37)	(362)	(4.7)	(40.9)

※()内は平成30~令和4年の5カ年平均値

【これからの栽培管理のポイント】

●中干しについて

5月上旬までに植えた水稻は、既に中干し時期です(目安:コシヒカリで茎数330本/m²)。分けつ盛期になると茎数は急激に増えるため、中干しの適期を逃さないようにしましょう。

(※詳細はR5水稻生育情報No.1参照)

●イネ縞葉枯病について

農西地域では、イネ縞葉枯病の発生が問題となっています。ヒメトビウンカ(以下、ウンカ)が媒介するウイルス病で、発病した後の治療法はありません。

ウンカは6月上中旬頃に水田に飛来し、ウイルスを保毒したウンカがイネを吸汁することでイネが感染します。また、保毒していないウンカが本病に感染イネを吸汁することで新たにウイルスを保毒し、この繰り返しで被害が拡大します。

感染すると葉が縞状に黄色くなり、分けつ期には葉先がこより状に垂れ下がり枯死するか(写真1)、枯死しなかった茎でも穂が出すくんで奇形となり不稔となるため減収します。

(防除対策)

県病害虫防除所から5月24日付で注意報が発表され、県西地域で本病の発生が多くなることが予想されます。育苗箱施薬と併せて、本田防除を行いましょ。本年のヒメトビウンカの発生時期は「やや早く」、本田での予測防除適期は下館地点で6月10～17日、下妻地点で6月8～15日となっています。



写真1 イネ縞葉枯病の症状

(参考) 茨城県病害虫防除所 HP

